ミャンマー連邦におけるサイクロン被災者支援・日本語教育ボランティア活動報告書

学習院大学大学院
人文科学研究科　英語英米文学専攻
博士後期課程 2 年

小野寺　潤

平成 22（2010）年 12 月

ミャンマー連邦におけるサイクロン被災者支援・日本語教育ボランティア活動報告書

英語英米文学専攻博士後期課程 2 年　小野寺潤

1.　活動の概要

1.1　活動期間

平成 22（2010）年 8 月 1 日（日）～8 月 16 日（月）

1.2　活動地域

ミャンマー連邦[1]：

エーヤーワディー管区：デーダイェー市、チョウンチン村・チャウッサリッ村・デーダイェー市内

ヤンゴン管区：ヤンゴン市

1.3　主催団体

特定非営利法人日本ミャンマー・カルチャーセンター(Japan Myanmar Culture Center; JMCC)　：

JMCC は在日ミャンマー人が数多く居住する高田馬場にあり、日本人に対してビルマ語教育やミャンマー文化の紹介活動を行っている。子ども会を通じた在日ミャンマー人子弟の教育や在日ミャンマー人への生活支援などの活動も行われており、日本人とミャンマー人の交流の場ともなっている。また、ミャンマー国内の孤児や経済的に恵まれない子供たちの就学、ハンセン病患者への生活支援を行っている団体への支援や、サイクロン・ナルギス被災者支援活動などのボランティア活動も行っている。JMCC の運営には学生を含む日本人ボランティアが多数参加している。

1.4　活動内容

エーヤーワディー管区デーダイェー市のチョウンチン村・チャウッサリッ村・デーダイェー市内において平成 20（2008）年 5 月に発生したサイクロン「ナルギス」の被災者への「第 6 回 JMCC サイクロン・ナルギス被災者支援活動」に参加した。

ヤンゴン管区ヤンゴン市のさくら日本語図書室に図書の寄贈を行った。

ヤンゴン管区ヤンゴン市のマノーラマ無料僧院学院（Manawramma Gratis Monastery Educational Institute）において日本語教育ボランティアを行い、図書の寄贈を行った。

2.　サイクロン・ナルギス被災者支援活動

2.1　サイクロン・ナルギス

平成 20（2008）年 5 月 2 日～3 日にかけて、ミャンマーのイラワジ（エーヤーワディー）デルタ地帯を中心に大型サイクロン「ナルギス」が襲い、甚大な被害をもたらした。死者および

行方不明者は 13 万人を超えるとされる。サイクロン発生直後は国際的な関心が集まり日本の諸団体からも援助が行われたが、サイクロン発生から 2 年以上経つ現在は、日本においてはサイクロン・ナルギスによる被害はほとんど忘れ去られているといえる。しかし、被災者にとって困難な状況は依然として続いており、支援が求められている。

2.2　JMCC の支援活動

JMCC では、サイクロンによる被災直後から現在に至るまで、継続的に被災者への直接的支援を行っている。これまでに、生活物資・食糧・医療器具・薬品・学習用品・現金などを届け、橋や住宅の建設支援を行った。

第 1 回支援活動：イラワジデルタ地帯（2008 年 5 月 23 日～6 月 3 日）
第 2 回支援活動：イラワジデルタ地帯・デーダイェー（チョウンチン村）、
ヤンゴン市フラインタヤー（2008 年 8 月 3 日～9 月 15 日）
第 3 回支援活動：イラワジデルタ地帯・デーダイェー（モービー村）
（2008 年 12 月 27 日～2009 年 1 月 4 日）
第 4 回支援活動：イラワジデルタ地帯・デーダイェー（デーダイェー市内、モービー村）
（2009 年 8 月 5 日～8 月 16 日）
第 5 回支援活動：イラワジデルタ地帯・デーダイェー（デーダイェー市内、チョウンチン村）
（2009 年 12 月 26 日～2009 年 1 月 5 日）

2.3　第 6 回支援活動

①活動期間：平成 22（2010）年 8 月 1 日
②実施地域：イラワジデルタ地帯（エーヤーワディー管区）・デーダイェー（チョウンチン村、チャウッサリッ村、デーダイェー市内）

この地域はサイクロンの被害が最も大きかった地域の一つである。サイクロンの後、レーダマー（土地を持つ農民）の暮らしは安定してきている。しかし、農業労働者や漁民には援助はほとんどなく、農作業も少なくなっており、川での漁獲も激減しているため、農業労働者・漁民の収入は少なく、厳しい生活を強いられている。チョウンチン村・チャウッサリッ村・デーダイェー市内にはサイクロンにより家を失い、依然として再建できていない世帯がある。

③援助内容：住宅建設（13 棟）、発電機設置、生活物資（石鹸）の配布

・前回までの支援を受けた住民に集まってもらい、各世帯の現状の聞き取り調査を行った。
・居住環境が悪く、生活基盤が不安定な世帯の訪問調査を行い、住宅建設のための支援を行った。
・チョウンチン村において発電機設置のための支援を行った。
・チョウンチン村・チャウッサリッ村において石鹸 6 個を配布した。

④執行額：144 万チャット（住宅建設 104 万チャット、発電機設置 40 万チャット）

※2010 年 8 月現在では、1 米国ドルが約 1000 ミャンマーチャットで流通していた。

3.　日本語図書寄贈

ミャンマー連邦においては、他の外国語と同様に日本語教育がさかんであり、熱心に日本語が学習されている。しかし、ミャンマー国内においては輸送の問題や両国間の物価の大きな違いにより、日本語の学習教材や書籍の入手は非常に困難である。今回の活動では日本で集めた図書を､ヤンゴン市のさくら日本語図書室に 26 冊､マノーラマ無料僧院学院に 17 冊寄贈した。

4.　日本語教育ボランティア

4.1　日本語教育ボランティアの概要

①活動期間：平成 22（2010）年 8 月 3 日～8 月 16 日

②活動場所：ヤンゴン市マノーラマ無料僧院学院

（Manawramma Gratis Monastery Educational Institute）

4.2　マノーラマ無料僧院学院

マノーラマ無料僧院学院はヤンゴン郊外にあり、仏教僧のサヤードー・ウー・ワーヤメインダが校長をつとめている。この学院では英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、日本語などの外国語のほか、経営学・ホテルサービス・薬学などの教育を大学生や若者を中心とした生徒を対象に広く行っている｡この学院では基本的に授業料をとらず、教師もボランティアで教育活動にあたっている。とりわけ日本語は多くの学生が集まる人気の講座となっており､ミャンマー人講師と日本人講師がさまざまなレベルの日本語を教えている。

4.3　日本語教育ボランティアの活動内容

ミャンマー人講師の授業の間、机間を回り学習の補助を行い、会話練習に参加するなどの教育補助を行った。また、20 分程度の日本文化紹介や日本語の文法の指導を、さまざまなクラスにおいてビルマ語で行った。授業のない時間は共同のスペースにて学生と交流し、日本語の指導や日本文化の紹介を主にビルマ語にて行った。

5.　活動のまとめ

今回、本報告書執筆者が所属する JMCC によるボランティア活動に参加し、4 週間ミャンマー連邦に滞在した。ミャンマーにおいてもさまざまな社会的問題があるが、ミャンマーの方々のご親切により、予想していたほどの困難な状況にあうことはなく、非常に有意義な滞在となった。物資が豊富なヤンゴン市に比べ、農村部などでは住居や食糧に困難を感じている方々がいる状況を見ることとなった。そのような地域には大きな団体の支援も行き届きにくい人々が

おり、彼らに少額でも継続的に直接的な支援を行う活動の意義を強く感じた。また、ミャンマーでは日本語が熱心に学ばれており、その真摯な姿勢にも強く心を動かされた。若い学生とともに多くの時間を過ごし、日本語を教えつつ私も彼らからビルマ語を習い、できるだけビルマ語を使い会話することを心がけた。サイクロン被災者の方々、さくら図書室の皆さん、マノーラマ無料僧院学院の皆さん、派遣団体の JMCC、今回の活動を可能にしてくれたすべての方々に感謝する。

---

[1] 2010 年 10 月に国名を「ミャンマー連邦(The Union of Myanmar)」から「ミャンマー連邦共和国(The Republic of the Union of Myanmar)」に変更。